

第10章 平成15年度研究会活動記録

高比良 美詠子

メディア教育開発センター共同研究
『メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発』
「学習評価支援」フォーカスグループ
平成15年度第1回会議 議事録

◇議題：今年度の研究計画（研究計画の提案と意見交換）

◇日時：平成15年8月5日（火）10：30～17：00

◇会場：NIME研究棟2階会議室

◇出席（敬称略）：客員教授：三尾忠男

共同研究員1：大塚雄作、木村友久、谷川由紀子、戸田博人、宮本正一

共同研究員2ア：鈴木京子、長谷川元洋、宮下和子、宮田仁、脇田里子

NIME：伊藤秀子、波多野和彦、高比良美詠子

◇担当：企画（伊藤）、司会（波多野）、記録（高比良）

1. 開会の挨拶（伊藤先生）

2. 本年度のスケジュールについて（波多野先生・高比良）

3. 研究報告

3.1 波多野先生【NIME】

- ・企業の中でのe-ラーニングの運用上の課題について（戸田先生との共同研究）。
- ・情報通信技術を活用した新しい学習方法について。
→3D素材を取り入れた多地点の小集団の連携による教育実践モデルを開発。フィールドに情報通信ネットワークを引くことで、学習活動を支援する実践の紹介（谷川先生との共同研究）。

※質疑応答で出た話題

- ・機材をフィールドに持ち出すときに生じる問題について。
- ・生徒の活動記録のとり方について。
- ・PDAではなく、無線ランを使用することの意味。

3.2 三尾先生【早稲田大学】

- ・授業評価に関するアンケート調査の実施について。
- ・大学生の学習技能（学習力）に関する検討。…学力との相関、自由記述による項目収集の試み。
- ・授業への感想・質問事項を毎回の授業ごとに書かせ、それに対してコメントをつけて返すという実践の紹介（「大福帳」を改良したもの）。その効果について。

※質疑応答で出た話題

- ・「大福帳」についての詳しい説明、実施上の工夫等について。
- ・生徒の「授業評価能力」の育成法について。
- ・生徒からのコメントを、どのようにして授業の改善に役立てるかという問題。

3.3 高比良【NIME】

- ・メディア使用の教育効果に関して、今まで行ってきた実証研究の紹介。
- ・インターネット使用が、情報活用の実践力（収集力、判断力、表現力、処理力、創造力、発信・伝達力）に及ぼす影響の検討。

※質疑応答で出た話題

- ・「情報活用の実践力」の測定方法について。
- ・情報活用の実践力の中の「創造力」と、インターネット使用との関係。
- ・情報活用の実践力と、現実場面における問題解決能力との関係。

3.4 大塚先生【大学評価・学位授与機構】

- ・大学評価の目的と実際について。
- ・評価の機能をめぐる問題について（メジャーとしての評価か、プロンプターとしての評価か）。
- ・学習活動を促進するような評価のあり方について（「学習コミュニティ」の視点から）。

3.5 木村先生【山口大学】

- ・大学の教官研究室と小中学校を回線で繋ぎ、遠隔教育を行う実践の紹介。
- ・学生がデジタルコンテンツ（300kbpsのビデオ画像）の作成を行う実践の紹介。
- ・知的財産権学習用教材制作の試みについて。

※質疑応答で出た話題

- ・番組配信の具体的な方法について。

3.6 谷川先生【日本電気(株)】

- ・多地点小集団連携による共同学習の実践研究の紹介（波多野先生との共同研究）。
→総合学習、教科学習、情報通信技術を有機的に連携させた新しい教育実践モデルの提案。

※質疑応答で出た話題

- ・使用したシステムと、具体的な使用状況について。
- ・総合学習と教科学習間の連携の分析について。

3.7 長谷川先生【金城学院大学】

- ・協調学習にICTを活用した授業実践の紹介。
- ・実践の中で出てきた問題について（指導・支援の方法、グループ間格差、評価の方法など）。

※質疑応答で出た話題

- ・このような実践を行う場合の負担について。
- ・グループ内の発言を活発化させるための工夫について。

3.8 宮本先生【岐阜大学】

- ・サテライト教室での遠隔授業実践とその評価について。
- ・特別支援教育を支援するアセスメントソフトの開発について。
- ・不登校の子ども用学習支援ソフトの開発について。

※質疑応答で出た話題

- ・遠隔授業実践の具体的な内容について。
- ・不登校の子どものインターネット使用について。

3.9 鈴木先生【日本大学】

- ・パフォーマンス・アセスメントの活用事例を下記の実践において開発・展開することを、活動目的とする。
 1. 授業実践評価に関するループリックの作成
データとして、教職課程を履修している学生による教材開発に主眼を置いた模擬授業実践（ロールプレイ形式）をとりあえず使用する。
 2. e-learning教材の評価方法に関するループリックの作成
データとして、一般サイトと学生作品（上記模擬授業で使用した指導案をWeb教材として開発するように指導）を使用する。

※質疑応答で出た話題

- ・「パフォーマンス・アセスメント」の定義について。
- ・「evaluation」と「assessment」の違いについて。
- ・教材の評価基準を一定に保つための工夫について。

3.10 宮下先生【鹿屋体育大学】

- ・双方向型の英語コミュニケーション授業実践（英語テキストに関するプレゼンテーションと英作文を課し、それへのフィードバックを行っていく授業実践）の紹介。
- ・課題と展望（このような授業実践をe-ラーニングに繋げていくために）。

※質疑応答で出た話題

- ・授業実践の具体的な内容について。
- ・「学習コミュニティー」の形成という観点からの考察。

3.11 宮田先生【滋賀大学】

- ・滋賀大学教育学部宮田研究室で開発された携帯電話対応コメントカードシステムを使用した「対面式授業」での実践紹介。
→対面多人数講義で、授業コミュニケーションの活性化をはかるための取り組み。

- ・携帯電話対応コメントカードシステムを使用した「遠隔授業」での実践紹介。
- ・携帯電話対応コメントカードシステムを使用した「隔週対面式授業」での実践紹介。
- ・e-ラーニング用Web教材と携帯電話対応コメントカードシステムを併用した実践の紹介。

※質疑応答で出た話題

- ・授業実践の具体的な内容について。
- ・携帯電話対応コメントカードシステムを他の人が利用したい場合の方法。
- ・Web教材を用いて非同期的に学習した場合のフィードバックと学生間の相互作用について。

3.12 脇田先生【福井大学】

- ・多文化クラス（日本人学生と留学生の合同クラス）で行った授業の変遷について（講義型、プロジェクトワーク型、合宿型、ディスカッション型）。
- ・ディスカッション型の授業実践（留学生のトラブル事例に関するディスカッション。ディスカッションの内容は、後でWebページに掲載）の紹介。
- ・授業改善に向けての試みについて（評価方法の検討。学習環境の整備。効率性という視点）。

3.13 伊藤先生【NIME】

- ・フレキシブル・ラーニングと主体的な学習の支援について。
- ・学習者と教授者が授業への参加を通して学習教授評価を体験するという実践（教授者とすべての学習者が交替で授業を行い、それへの評価を受ける）の紹介と、その分析方法（ビデオ記録による自己モデリング、調査への回答による意識化）について。

4. 閉会の挨拶（伊藤先生）

以上（編責 高比良）